

しながわ水族館リニューアル事業計画 概要版

第1章 しながわ水族館リニューアルの方向性について

1. これまでのしながわ水族館

- ◆ しながわ水族館は平成3年10月19日に開館し、「水辺とのふれあい」をテーマに水生生物を身近に観察し学ぶことを趣旨とした「遊体験」を楽しめる水族館を目指し運営を継続
- ◆ 一方で、しながわ水族館は開館から30年以上経過しており、経年劣化が多くみられることや、社会ニーズの変化による様々な課題を抱えていたことから、今後の水族館のあり方について検討

2. 次世代区立水族館の開発について

1) 次世代水族館の方向性について

- ◆ 品川区長期基本計画に関連する政策の柱についてその推進の役割を果たすこと
- ◆ 品川区の都市型観光の拠点となると共に、歴史文化についても情報発信する水族館となること
- ◆ しながわ区民公園と一体となることで公園および水族館の双方の魅力を向上させること

2) イルカ展示とイルカショーの廃止

イルカ展示を行う役割は一区切りとし、イルカ展示とイルカショーは終了すると判断

3) 建設場所および施設規模

- ◆ しながわ区民公園内の勝島の海に隣接する位置
- ◆ 規模は中規模(延床面積5千㎡程度)の水族館
- ◆ 年間の利用者数、初年度100万人、5年後60万人を想定

4) 開発理念

- ◆ 大人の知的好奇心を満足させる水族館
- ◆ 区民の憩いと教養の場
- ◆ SDGsを担う水辺の文化観光施設
- ◆ しながわ区民公園の魅力向上に貢献
- ◆ 品川らしさを取り入れた展示により競争力を持つ

5) 展示理念

- ◆ しながわ区民公園と一体的な魅力の向上
- ◆ 水中感あふれる美しい展示
- ◆ 文化と歴史を取り入れた展示
- ◆ 東京湾にこだわりを持った展示
- ◆ 品川らしい体験学習の展開
- ◆ 品川の情報発信と区内他施設との連携
- ◆ 区民アイデアを取り入れた展示

6) 施設計画

- ◆ 誰もが利用できる施設
- ◆ 持続可能な施設
- ◆ 近隣住民への配慮

3. しながわ区民公園および現状施設の考え方

1) 次世代水族館立地の考え方

- ◆ 人工湖「勝島の海」との位置関係および公園内動線を踏まえた立地
- ◆ 周辺環境、今後の運営形態に適した配置を計画

2) 既存施設の利用

- ◆ 現在のしながわ水族館・・・二次的な使用
- ◆ 付帯施設(売店、ショップ等)・・・リニューアル後も継続的に活用

4. 今後の進め方

- ◆ 学術連携
- ◆ しながわ区民公園の機能向上
- ◆ 周辺施設との共同連携の強化
- ◆ 営業時間の検討
- ◆ しながわ区民公園の自然環境、景観との調和

しながわ水族館リニューアル事業計画 概要版

第2章 新しい水族館に関する基本的な事項

1. 全体方針

「品川のルーツに触れ、多様な命の輝きを未来へつなげる、“環境一体型水族館”」

- ◆ 自然豊かな公園環境と一体化する水族館を創出
- ◆ 区民と水族館利用者から企画・展示・サービスに関するアイデアを募集



図1 鳥瞰イメージ

2. 展示

1) 展示コンセプト

「江戸前の海から、地球と命に触れる」

- ◆ 品川浦と品川宿を象徴とした「江戸前の海」をキーワードに「品川らしい」水族館を実現

2) 展示の特徴

- ◆ 品川宿の歴史と結びつく品川らしい展示
- ◆ 公園の景観と調和した展示
- ◆ 生物多様性への興味関心を向上
- ◆ XRを活用した非日常空間の演出



図2 展示イメージ



図3 展示イメージ

第3章 施設

1. 設計上の与条件

- ◆ 関連上位計画との整合
- ◆ 関係法令の遵守および施工上の制約に配慮

2. 建築

- ◆ 公園の有する自然景観を最大限に活用できる施設の配置を計画
- ◆ 公園との連続性、利用者の利便性を考慮したゾーニング
- ◆ 既存水族館は公共サービス機能と飼育管理機能を集約

3. 構造

- ◆ 水族館に必要な耐震性能の確保

4. 設備

- ◆ 環境に配慮した性能の設備導入
⇒ ZEBの実現、BCP（事業継続計画）等
- ◆ 「勝島の海」と連携した運河の水の再利用等

5. 飼育設備

- ◆ 災害時の停電の際に生物の生命維持に必要なインフラ機能やろ過循環機能を有する設備を導入
- ◆ 生物の生命維持の一環として人工海水製造設備を導入
- ◆ 飼育水の一部を殺菌処理し、予備水槽等で再利用できる環境に配慮した設備を導入

6. 公園外構

- ◆ 駅から公園までのアクセスルートや公園内サイン施設を整備
- ◆ 公園内の自然環境による景観の向上等に向け、グリーンインフラを導入

しながわ水族館リニューアル事業計画 概要版

第4章 事業手法

1. 事業手法選定の考え方

- ◆ 効果的かつ効率的な事業手法の選定
- ◆ しながわ水族館の魅力向上に向けた更なる民間活力の導入
⇒上記2点の考え方を基に適切な事業手法を選定

2. 適用可能な事業手法

- ①個別発注 ②PFI (BTO) 方式 ③DBO方式 ④DB方式+維持管理と運営 (一括発注)

3. 事業費の見込み

1) 施設整備費

- ◆ 基本設計を基に約147億円 (令和6年9月時点) と試算

2) 維持管理運営費

- ◆ 開業後は運営により得られる収益で賄うことを想定
- ◆ 開業前年度に開業前準備費として約3.9億円と試算

3) 大規模修繕費

- ◆ 各施設や設備の更新サイクル及び入場者数を一定に保つため仮の大規模修繕計画を設定
- ◆ 開業後7年ごとに大規模改修が発生すると想定し、15年間で約31.9億円と試算

4) 収入

- ◆ 「しながわ水族館リニューアルの方向性について」で示した入館者数 (初年度100万人、5年後60万人) に対し、仮に大人料金2,000円と設定し、試算
- ◆ 入館料金は開業時の社会情勢と他水族館の入館料金と比較し、適切に設定

4. 事業費の削減率

- ◆ 個別発注に対するその他の手法の削減率を定量的に算定
⇒PFI (BTO) 方式 (約9.0%増▲) DBO方式 (約4.7%減▼)
DB方式+維持管理と運営 (一括発注) (約5.5%減▼)

5. 事業の特性

- ◆ 競争性確保の観点から建設業務を運営から切り離れた手法の採用が必要
- ◆ 施設と設備等の維持管理は水族館の運営と連携することで、より魅力的な水族館運営が可能

6. 総合評価

- ◆ 総事業費の削減効果が高く、競争性を確保し、複数企業者の提案を受けられるDB方式+維持管理と運営 (一括発注) を採用

第5章 実現に向けた進め方

1. 区内経済の活性化

- ◆ 区内経済の活性化に資するため、区内の企業が事業に参加しやすい募集要件等を作成

2. 周辺施設との連携

- ◆ 区内の公共施設 (品川歴史館、エコルとごし等) との連携企画・イベントを実施
- ◆ 大井競馬場の再整備と連携した勝島周辺の賑わいの創出

3. 既存水族館の閉館と工事期間中の生物対応について

- ◆ 現在の水族館は展示生物への影響等、総合的に判断し、工事着工前に全面閉館
- ◆ 閉館中の生物種については優良な飼育環境が整っている他水族館動物園に搬出

4. 事業全体のスケジュール

- ◆ 早期に事業者を選定・事業に着手し、令和15年度の開業